

DX推進の 取り組み

2023/10/02 発行

2024/01/12 改訂

2024/05/10 改訂

基本的な考え方
ビジネスの力で持続可能な社会を実現

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS**

リコーITソリューションズ株式会社
代表取締役 社長執行役員

野水 泰之

本文書では、全社戦略とDXに関する実施事項、さらに、各実施事項における、取り組み状況についての詳細を説明しております。こちらは、2025年度末をターゲットとし、実施中の内容となります。DXの取り組み状況・進捗については、随時資料を更新して公開してまいります。

全社
戦略
1

自社の価値共創力を高め、リコーグループの事業成長に貢献する

DX

実施事項

1. データ利活用によるマネジメント業務の迅速化と質向上を進める
2. データ利活用による開発業務の高効率化を進める

評価指標

1. データを活用した人材アサイン
2. 開発業務の工数削減

全社
戦略
2

市場向け事業の取り組みを拡大し、強固な足場を確立する

DX

実施事項

3. リコーグループで培った技術を活かして、市場向けビジネスを獲得する
4. 市場より得られたデジタルノウハウ・知識をビジネスへフィードバックし、ビジネス創造に貢献する

評価指標

3. 市場ビジネス拡大
4. 新ビジネス創出数

全社
戦略
3

事業推進を最適に進める経営資源を整備する

DX

実施事項

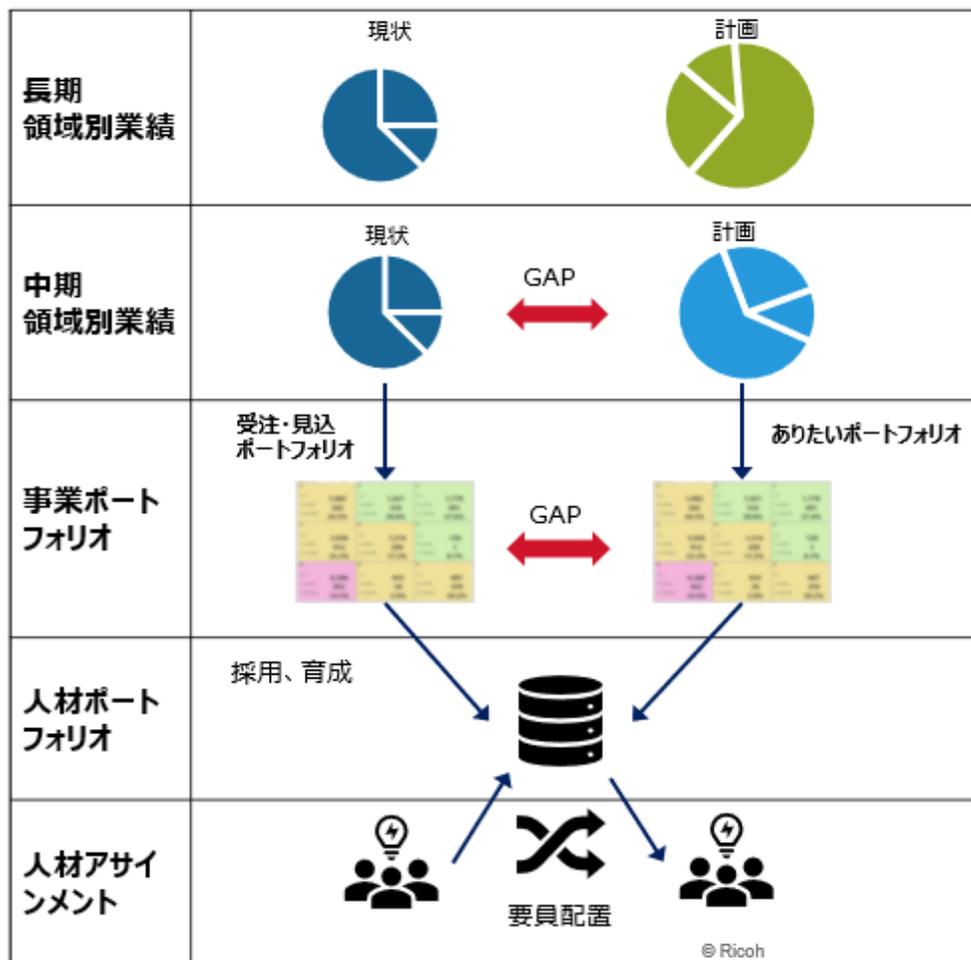
5. 人的リソースをリスキングにより強化し、全社におけるデジタル人材を増強する
6. データを経営に効率的に利活用するためのプロセスを確立する

評価指標

5. DX認定資格者(ブロンズ/シルバー/ゴールド)
- 6.1 DXデータ活用BIの構築及びブラッシュアップ
- 6.2 社内DXによる業務工数削減

■ 実施事項1. 経営マネジメントの迅速化と質向上

データを駆使したスピーディーなGAP分析と経営マネジメントを実現します



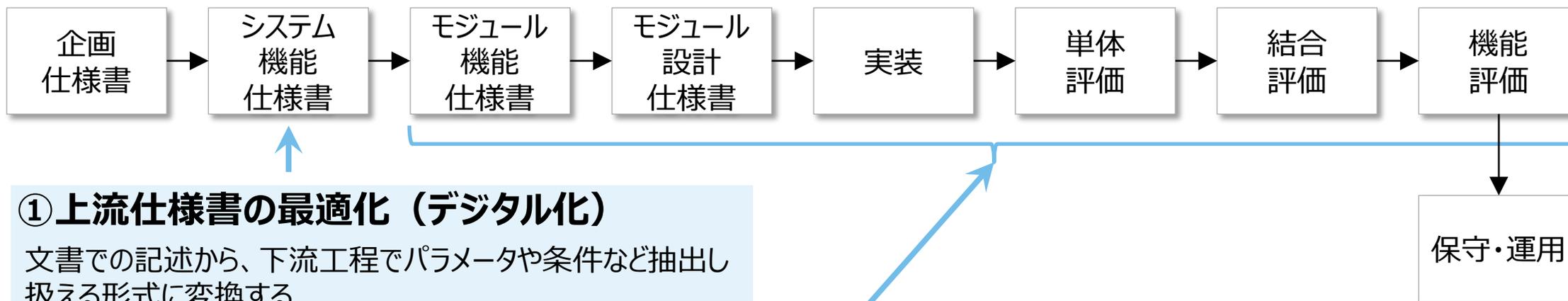
データによる活用効果

- ・ リアルタイムな業績可視化による経営判断
- ・ 事業ポートフォリオへのギャップ可視化
- ・ 人材ポートフォリオへのギャップ可視化
- ・ 効果的な要員アサイン
- ・ 上記プロセス改革による、要員の適材適所手配

■ 実施事項2. 開発業務の効率化

データを活用し、開発業務の効率化を図ります

開発プロセス（製品開発の例）



① 上流仕様書の最適化（デジタル化）

文書での記述から、下流工程でパラメータや条件など抽出し扱える形式に変換する

② 自動化対象とする業務を洗い出す
(対応による効果の大きさなどから判断)

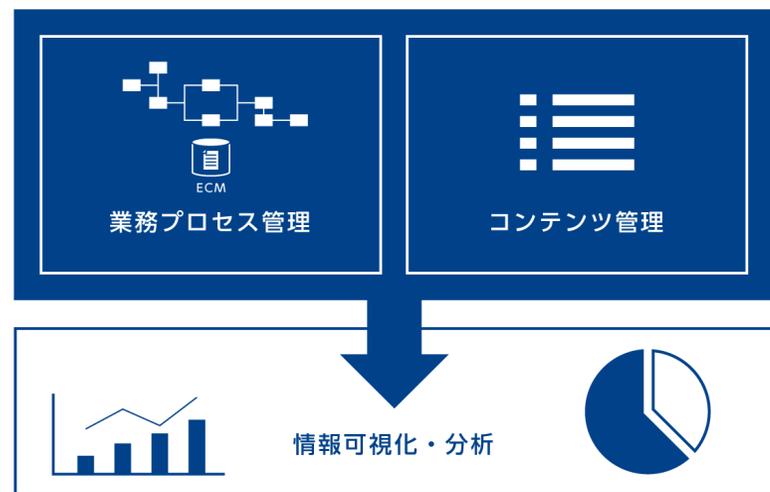
③ 自動化ツールの作成と展開

実施の効果

- ・下流工程での工数削減
- ・各工程における属人化や業務のミス排除
- ・複数機種開発における重複作業の削減

■ 実施事項3. 市場ビジネスの獲得

社内DX実践で得たノウハウを反映したクラウドサービスを提供し、
お客様の業務プロセスの変革とDX促進をサポートしています



企業におけるさまざまな活動の
“業務プロセス管理” 機能と
“コンテンツ管理” 機能を一体化し、
情報可視化・分析を可能にするための、
クラウドサービスアプリケーションのプラットフォーム
「**EIM** : (Enterprise Information Management) 」
を提供しています

クラウドサービスの商品力強化

クラウドサービスのラインナップ拡充

支援プロセスの強化

市場に向けた事業化(外販促進)

デジタルサービスの創出活動を
強化し、お客様の業務プロセス
の変革とDX促進をサポートして
いくとともに、成長領域の
ビジネスを加速していきます

実施の効果

- ・ **リコーグループ実践事例の市場への提供による効果創出**
- ・ **当社の企業価値創造**
- ・ **DXビジネス展開加速**

■ 実施事項4. デジタルサービスの創出

AIストラテジーセンターを新設し、オフィス領域だけでなく、産業や社会領域においてもAIによるデータの利活用を拡大し、お客様の高度な業務効率化と満足度向上につながるDX促進をサポートしていきます

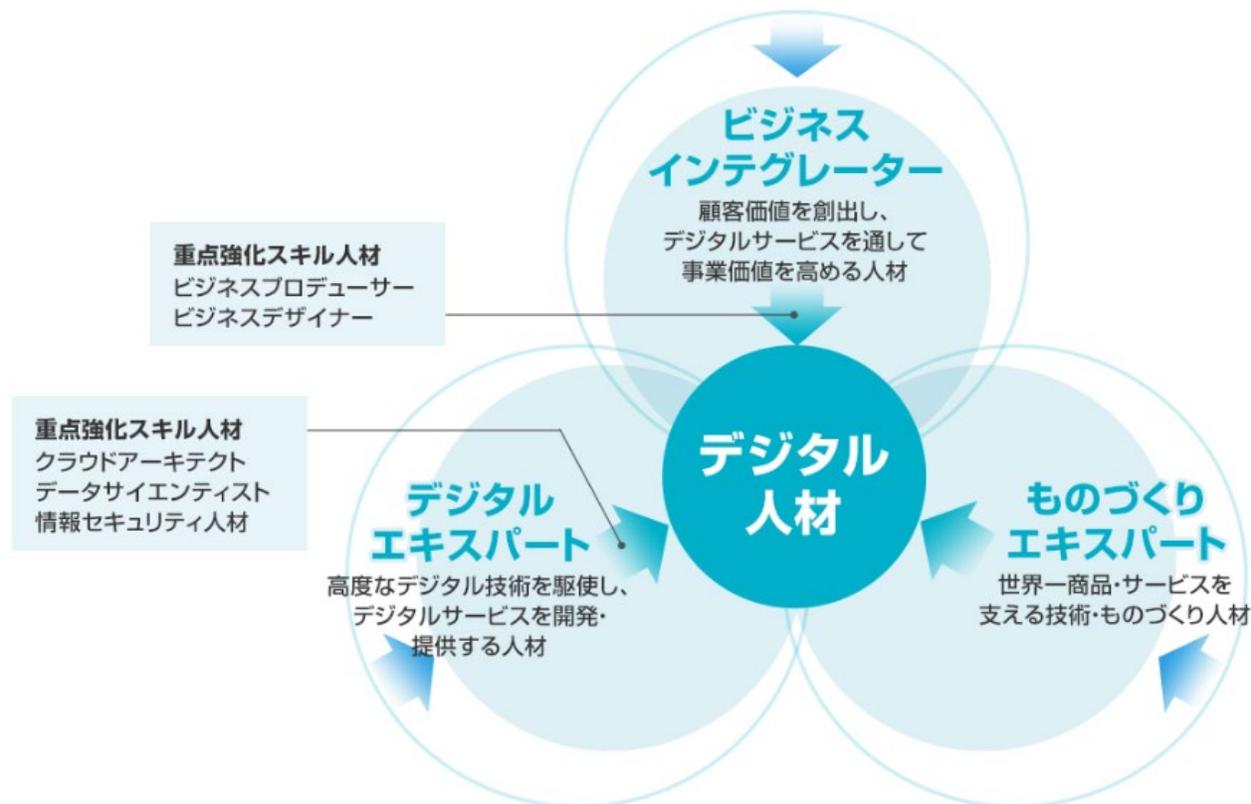
オフィス領域におけるAI活用事例：仕事のAI
・自然言語解析を活用した顧客支援

VOC(顧客の声)データを活用し、企業、商品、サービス品質向上を支援するサービス
顧客の声について自然言語処理AI技術によって文章の意味を理解し、高度な業務の代替・判断支援を実現。業務効率化や顧客満足度の向上など新たな活用価値を創出



■ 実施事項5. デジタル人材の育成強化

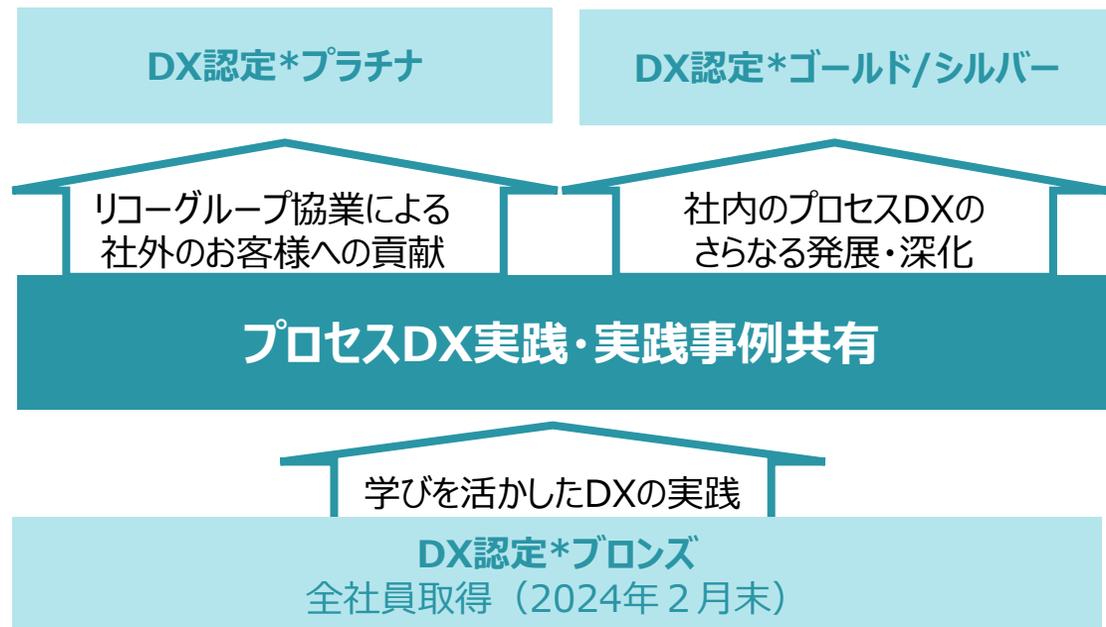
「デジタルサービスの会社」として事業の実行力を高めるために、
自社を含むリコーグループ全体が「デジタル人材の強化」に取り組んでいます



社員一人ひとりが自律的に学び続けることが重要であり、社員全員がデジタル技術とデータを使いこなすスキルを身に付け活用することで、DX最前線で活躍する主体性を持ち尖った技術者を育て、個人と事業の成長を同時に実現することを目指しています

■ 実施事項5. デジタル人材の育成強化

プロセスDXを実践し、顧客への価値提供へ繋げるため、
プロセスDXのスキルを持つ人材を育成します



*DX認定～スキルを測る社内認定制度

プロセスDXを実践する中で身に付けたスキルを、プロジェクトやテーマをリードする人材、DXを活用したソリューションを導き出しその構築をリードする人材にわけ、それぞれ到達するスキルレベルを定義し、その達成度を認定する制度です。

この社内認定制度を活用し、社員の目標に沿ったスキルレベルの向上を目指します。

～プロセスDX人材の育成・強化サイクルと社内認定制度の活用～

人材の底上げを図る上では社内認定制度によってスキルを測り、その浸透度や達成度を管理することで、プロセスDXのさらなる発展・深化を目指し、リコーグループ協業によりその価値を社外のお客様へもお届けできるように取り組みます

■ 実施事項6. 業務のDX（データ活用）

様々な観点からのデータの可視化と利活用を通して業務マネジメントと経営戦略を強化し、データドリブン経営へのプロセスを確立します

経営情報のマネジメント活用シーンで

As-Is

必要データの不足・収集手間/手加工・後手の整備

To-Be

必要データの自動収集・常に共有/加工が容易・常に整備

①データ定義

②データ収集
(自動化)

③データ蓄積

④マネジメント
活用

財務情報

・売上、原価、販管費

受注情報

・事業情報

事業領域...

・顧客情報

社名、テーマ名...

・発注情報

社名、委託内容...

活用シーンの変化に対応し、必要データを常に見直す



BIツール

アクションプランに繋げる

様々な観点からのデータ可視化
活用シーン：経営戦略、営業戦略等



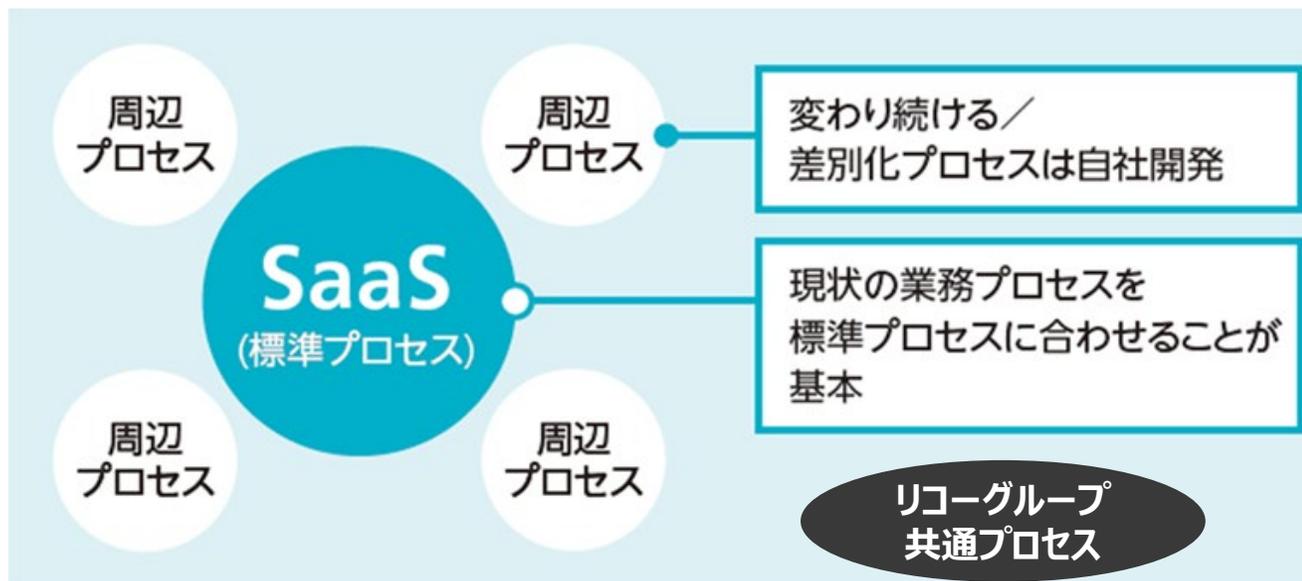
経営会議、業績レビュー、投資レビュー
事業マネジメント会議など、
常にデータ共有、可視化
→迅速な判断・意思決定

■ 実施事項6. 業務のDX（業務プロセス）

様々な観点からのデータの可視化と利活用を通して業務マネジメントと経営戦略を強化し、データドリブン経営へのプロセスを確立します

「デジタルを前提としたプロセス」構築を推進してきた当社として、世の中の変化、事業形態の変化に対して柔軟な対応ができない課題を抱えており、対策が急務となっています
現在、基幹プロセスとそれに伴うシステムの刷新プロジェクトが開始されております

システムはエンタープライズアーキテクチャー*の考えに則り、統一化されたSaaSを中心としたものとする



*エンタープライズアーキテクチャー：
企業全体のシステムを統一的な手法でモデル化し、業務とシステムの最適化を図る手法のこと

陳腐化したプロセスや曖昧さを含んだプロセスについては、すべて可視化、改善／改革を行い、BPRすることでより適切なプロセスを構築することができ、管理工数の削減に繋げる

SaaSの標準プロセスに自社のプロセスを極力合わせながらも、変わり続けるプロセス、自社独自のプロセスについては周辺プロセスとして、疎結合、柔軟性をキーワードに、時に個別構築も視野に入れた構成とする

RICOH
imagine. change.